



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

上越市の北前船の記憶が、平成30年に文化庁の日本遺産として認定されました。上越市では、北前船のストーリーを語る上で欠かせない有形・無形の文化財が構成文化財として認定されています。1年間にわたり、全11件の構成文化財を毎月紹介していきます。



北前船とは

北前船とは、諸説ありますが、江戸時代中期から明治30年にかけて、大阪・北海道間を日本海廻り（西廻り航路）で航海していた商船を指します。北前船最大の特徴は、ただ荷物を運んでいただけでなく、寄港した際に積み荷を売ったり、その土地の特産品を買って新たに積んだりして、商売をしながら航海をしていたことです。当時の船旅は大変危険なものでしたが、大阪から北海道まで一往復すると現在の価値で約1億円もの儲けがあったといわれるほど、船乗りたちにとっては夢のある航海でした。

多くの生業が生まれた、直江津の港

北前船が栄えた時代、直江津は「今町」と呼ばれており、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。当時の港は関川の河口港で、土砂が堆積しやすく川底が浅いという特徴があり、北前船などの大きな船は河口に入れなかったため、沖合に停泊し、舢舨と呼ばれる小型船を出して荷の積み下ろしをしました。まさに、目の前の海がみんな港だったのです。船荷を担った小揚、浜に上がった荷物を運ぶ駄賃持ち、船荷を取り扱う廻船問屋など、北前船が寄港したことによってさまざまな生業が生まれ、直江津のまちは大いに賑わいました。



佐渡汽船直江津ターミナルに置かれている、原寸復元された北前船の1/20の模型



大正～昭和初期の頃の港の様子。沖に大型の船、手前に小型の船が見えます。
(提供：まちおこし直江津 佐藤和夫氏)

日本遺産北前船の構成文化財を巡るまちあるき

「日本遺産北前船カードラリー」のカードを獲得しながら、構成文化財となる施設や近隣施設を巡ります。港町直江津の歴史・文化に触れてみませんか。

時 6月23日⑩午前9時～正午 所 集合場所＝ライオン像のある館（中央3）
定 20人（申込順） 申 問 6月5日⑩以降に文化行政課（☎025-545-9269）



広報対話課から

(☎025-526-5111)

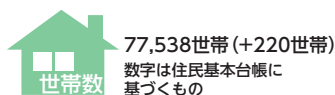
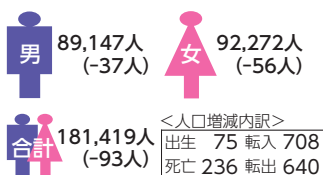
「広報上越7月号」は、6月20日⑩・21日⑩に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

㊗70 (古紙パルプ配合率70%再生紙を使用)

上越市の人口・世帯数

令和6.5.1現在。()は前月との比較



表紙のことば：つないでいこう、この豊かな自然

5月4日⑩に大島区田麦で行われた「旭新緑祭」にお邪魔し、ゆきぐに森林組合や地元住民の皆さんの手で整備された美しいふな林の散策に参加してきました。地球温暖化の進行はふなの生育にも影響を及ぼし、気温の上昇によって現在の群生地は、より標高の高い場所へと移っていきつと予測されているそうです。このふな林を子や孫の世代にも見せてあげられるよう、私もできることから取り組んでいこうと思います。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。